

読書のすすめ ～ 読書は頭と心の栄養 ～

船引小学校長 安生昌弘

今日は「かしこく」もなれるし、「やさしく」もなれる、とっておきの事を教えたいと思います。

船引小学校では、毎週月曜日の朝、10分間読書の時間があります。みんなに短い時間を見つけて読書する習慣を身に付けて欲しいという願いからです。では、なぜ本を読むことは大事なのでしょうね。みんなは面白いから本を読むのですが、実は本を読むと、自分でも気づかないうちに素晴らしいことがたくさんあるのです。

私の友達のY君の話をします。Y君は山あいの小さな村に生まれました。小学校も1学年1クラスの小さな学校でした。その学校の図書室も船引小学校と同じ位の広さですが、本はもう少し少なかったそうです。船引小の図書室には、9番台の物語や小説の本だけで約5,000冊ありますから、Y君の学校の図書室には3,000冊以上は有ったことでしょう。



Y君が3年生になった4月、お母さんから「たくさん本を読むと立派な大人になれるよ」と言われていたことを思い出し、自分だけのこなめあてを立てたそうです。「卒業までに図書室の物語を全部読もう」と。そして、図書室で放課後に本を読んだり、借りて行って家で読んだりしてとうとう卒業までの4年間に全部読んでしまったそうです。4年間で3000冊、1年間では750冊読んだことになりますから、毎日毎日2冊位ずつ読み続けたことになりますね。私は驚きました。すごいなあと感心しました。

Y君は、その後、郡山市の一番有名で成績の良い高等学校に進み、大学を卒業して先生になりました。今は、ある学校の校長先生になっています。そのY校長先生は言っていました。

「本をたくさん読むようになってから勉強も分かるようになったんだよ」と。確かにY先生はとても物知りで話をしていると、とてもためになる話が多いです。でもそれよりも私が感じるのは、Y先生の優しさや思いやりのある人柄です。それに惹かれて多くの友達や仲間がいます。私もY先生が大好きで、いつも会って話したくなります。本には登場人物の心の中の事も出てきますから、きっと本を読むことで、知らず知らずに優しさや思いやりも学んだんじゃないのかなと思います。つまり、本を読むことは勉強が分かることにも、思いやりのある人になることにも、つながっていくんだと思います。

読書は「かしこく」もなれる、「やさしく」もなれる、頭と心の栄養みたいなものなのです。みんなも学校での読みかけの本「マイブック」を常に近くに置き、月曜日には、学校では朝読み、家では本をたくさん借りて毎日、夕読みを



しましょう。1・2年生が音読をすることも夕読みの1つです。学校が休みの日は昼間に本を読む昼読みをしましょう。テレビやゲームは、みんなの頭や心の栄養を吸い取ってしまいます。だから、せっかく本を読んでも、テレビやゲームをすると頭や心が空っぽになってしまいます。テレビやゲームをすることをやめて、本を読むことで頭と心を成長させ、かしこくやさしい子どもになりましょう。